

グループ名	ユニット名等	科 目 名	担当教員名	対象学年次	学期
自己発見	2単位 文化を知る	思想	井上 新甫	1年次	秋

授業のキーワード	天心は人心、人心は天心
授業の概要	授業は「礼に始まり礼で終わる」。学問は身心で会得してこそ役に立つ。礼節を重んずるのはそのため。神道、儒教、仏教という日本の三大思想のうち、神道と儒教を学ぶ。儒教は良心の学問・陽明学が中心。神道は『古事記』を通じて日本人としての心学ぶ。
期待される学習成果（目標）	人間の根本とは何かを知り、人生に感激と勇気が醸成できる。家族や他人にどう応じ、また国家社会にどう処すべきかを知ろう。能力の有無に関係なく自己の尊さを知る。

## 授業展開

	テーマ	内 容		テーマ	内 容
第1講	日本の思想の流れ。	神道は日本人の心の故郷、儒教は日本人の学問的故郷である。	第9講	陽明学とは何か⑤	日本陽明学の特徴と発展
第2講	儒教とは何か①	儒教は孔子に始まる。わが国では江戸時代二百六十年余りの間、最も学ばれた学問である。	第10講	神ながらの道①	日本固有の思想信仰が神ながらである。また神道ともいう。神ながらは産霊の信仰である。
第3講	儒教とは何か②	徳を養うのは言葉を慎むにある。言葉をどれだけ尊ぶかが、人格形成の要領である。	第11講	神ながらの道②	神ながらは多神教であり、また一神教でもある。その聖典は『古事記』。
第4講	儒教とは何か③	儒教の根本原理は何か。女性は生命を生み出す大きな徳を持っていることを知る。	第12講	神ながらの道③	神ながらは日本人の生活習慣であり文化である。他の宗教とは違い、他を排斥しない。
第5講	陽明学とは何か①	陽明学は儒教の花である。現実にはいかに処するかの実践的学問で、これを事上磨錬という。	第13講	神ながらの道④	神ながらは、わが国の歴史を通貫する思想哲学である。よってわが国の儒教や仏教は其の迹が色濃い。
第6講	陽明学とは何か②	自己が依って立つ根本とは何か。これを知るか知らないかで、人生、天地の開きが出る。	第14講	道徳の根本は何か。	親への孝行が道徳の根本であり始めである。孝という字は、親と子が組み合わさっており、これは宇宙創成以来の連続性と一貫性を示す。
第7講	陽明学とは何か③	だれもの心は、天が与えたものだから天心である。人心はすなわち天心。心は無限の天に通ずる。	第15講	なぜ学問が必要か。	全講義のまとめ
第8講	陽明学とは何か④	心の優れた働き、知力のことを良知という。良知こそ是非善悪・正邪を半別ける最大な尺度。これが陽明学の真髄である。	定期試験		主要な語句を覚えたか、また語句を正しく解釈しているか。さらに全講義を通じての感想文を求める。記述式。教科書やノートなど持込可。
評価方法		定期試験 100%。授業中の積極的発言はプラスとして考慮する。レポートの提出などは求めないが、定期試験の感想文の配点は高い。これによって修学具合が正しく判定できる。			
使用する教科書（必ず購入してください）			参 考 文 献		
井上新甫著『王陽明と儒教』致知出版社			井上新甫著『神ながらの道』と『四言教講義・通釈と解説』を希望者は販売する。 儒教関係の書物は多数あるので、目についたものから読むとよい。		